

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)唐木田2プロジェクト	階数	地上4F
建設地	東京都多摩市	構造	S造
用途地域	市街化地域、準防火地域	平均居住人員	20人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年5月 予定	評価の実施日	2024年10月8日
敷地面積	7,493 m ²	作成者	戸田建設株式会社
建築面積	3,306 m ²	確認日	2024年10月9日
延床面積	10,271 m ²	確認者	上野 晃

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.2</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p> <p>環境品質 G</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 3.0</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 0.0</p> <p>音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.4</p> <p>機能性 耐用性 対応性</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.7</p> <p>生物環境 まちなみ 地域性・</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.3</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.1</p> <p>建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.7</p> <p>水資源 非再生材料の 汚染物質</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.3</p> <p>地球温暖化 地域環境 周辺環境</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>環境負荷低減のためBEIを低く抑えようと、資源に配慮した材料・工法の採用や節水器具を用いた計画である。</p>	<p>その他</p> <p>特になし</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>対象外のため、無し</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 免震層の導入をしている。 6.0mの高い階高を採用している。 耐用年数の長い材料を採用し、建物の耐用性に配慮している。 	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>地域住民がふれあえる植栽帯を敷地外周に計画し、周辺環境に配慮した計画としている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>エネルギー消費を低減させるためBEIが低くなるよう設計している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>リサイクル材を使用したりOAフロアを採用することで、部材のリサイクルの推進に配慮している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃焼機器を採用していないため、大気汚染物質を発生させない。 十分なスペースの駐輪場・駐車場の確保し、交通負荷抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される